ロータリー創立記念日に纏わる遊び種

神崎　正陳

最初のロータリー・クラブは、1905 年 2 月 23 日シカゴ市ディアボーン街ユニティ・ビル 711 号室のガスタヴァス・ロアの事務所において創立されたということになっています。RI では 2 月 23 日をロータリー創立記念日と定めています。この日を巡る嘘か真かに関わる小話を交えて…。

１　1905 年とは、どんな年だったのでしょうか。

まず、当時のシカゴの状況については、ポール・ハリスがその著書「ロータリーの理想と友愛」の中で、詳述しています。「シカゴより何の善きものか出ずべき」という第４章の表題が示すとおりの状況であったのです。その一部を引用しましょう。「シカゴ万国博覧会閉鎖後の惨たんたる光景は容易に忘れがたいものかある。これに加えてシカゴは全国を席捲した金融恐慌の第一撃におそわれたのであった。すでに博覧会にそなえるための過剰建築の現象が市のあらゆる方面にあらわれており、その結果は当然悲劇でなければならなかった。閉鎖された店、劇場、ホテル、アパート、貸事務所などは、張り散らされた売り家または貸家札と共に悲痛な圧迫感をそそっていた。…」。この表題は新約聖書ヨハネ伝第 1 章 46 節の「ナザレより何の善き者か出づべき」というキリストの使徒ナタナエル（バルトロマイ）の発言を捩ったものです。ナザレのような田舎町からメシアが出るはずがないという固定観念に擬えて、ポールが描写したようなシカゴのような街から生まれるはずがないロータリー運動が発展を遂げた因縁の不思議を指しているのです。ところで、シカゴといえば、アル・カポネを連想する方も多いでしょうが、禁酒法は 1920 年から 1933 年わたって施行されたものであり、カポネは 1899 年生まれでしたから、彼が暴れたのは 20 年以上後のことになります。

世界の情勢はどうであったかというと、私たちが興味を持つような出来事はあまり起こっていません。せいぜい学問の分野でアインシュタインの相対性原理の発表がなされたくらいです。

ところがわが国は大変でした。1905 年は明治 38 年に当たりますから日露戦争の２年目で、１月に旅順開城、３月に奉天の大会戦、５月に日本海海戦、９月にポーツマス条約といった具合です。戦争の経過は

私たちにとっては何はともあれ望ましい結果となりましたが、そのもたらした負の遺産は大きなものでした。文学の分野では、漱石の「吾輩は猫である」が出版されています。翌年には「坊ちゃん」、「草枕」。藤村が「破戒」を書いています。こんなような年だったのです。

２　シカゴは、ミシガン湖の西岸にある都市で、緯度は北海道の函館と同じくらいのところです。私は何回かシカゴを訪れたことがありますが、冬季の訪問のときはミシガン湖から吹き付ける風の厳しさには震え上がりました。その上に人心の荒廃という心理的な寒さが加わっていたことを思うと、ポールが「恐ろしいほど孤独だった」といった気持ちがよく分かりました。

さて、上述の 1905 年 2 月 23 日の夕方、ポール・ハリスはクライアントで石炭商のシルヴェスター・シールと、シカゴの環状道路の近くイリノイ街 18 番のボヘミヤ料理店「マダム・ガリ」で食事を共にしました。この店は今は存在しませんが、当時は料理がうまかったことと、シカゴの有名人の溜まり場的雰囲気とで大変人気があったようです。ここで、ポールとシルヴェスターは、一業一会員制をとる実業人のクラブつくることを議論して意気投合し、連れだってガスタヴァス・ロアとハイラム・ショーレイの待つユニティ・ビルに行ったのでした。

この日ポールは新しいクラブを創ること、会員同士が心の友となるために定期的会合と同業者の排除を提案し賛同を得ました。この第 1 回会合で、クラブの基本的構想は決まりました。その後会合は 3 月 9 日にポールの事務所で、さらに 3 月 23 日にシールベスターの石炭置き場でと回数を重ね、会員は 9 人（姓名は末尾に掲記）となり、クラブの名称も決まり、シールが会長に、ハイラム・ショーレイが幹事に、ハリー・ラグルスが会計に選出されることによって組織的にクラブとして成立したのです。この辺の状況については、ポールがクラブ創立 7 周年に語った記録がありますので、末尾に引用しましたのでご覧ください。

1923-4 年度の RI 会長ガイ・ガディカーは「ロータリーは 1905 年にとくに基礎となる論文もなく、インスピレイションから生まれた。」と述べていますが、そのクラブが 100 年後には創立当時には想像すらつかない世界的組織に変容していたのです。この変容を現代ロータリアンは冷静に分析・評価すべきではないでしょうか。1959-60 年度の RI 会長ハロルド・トマスが「1905 年第 1 回の会合が行われた時にロータリ

ーが誕生したというのは、あたかも毛虫が卵から孵った時に喋々が生まれたというのと同じだ…」と述べていることもじっくりと考えてみる必要があると思います。

３　16 年前、私がアナハイムの国際協議会に出席したときのことでした。グループ・リーダーであった韓国の金鐘大さんが、私たちに 2 月 23 日のことを詳しく話してくれました。そして終わりに、真面目な顔で「皆さんこの日ふたりがマダム・ガリの店で食べたのはマカロニですかスパゲッティですか」と質問したのでした。皆ポカンとして答えた人は一人もいませんでした。金さんはこの答えはまたのお楽しみといって教えてはくれませんでした。私はこのクイズが頭に引っかかったままに帰国しました。禅の公案を解くようなもので、こうなったら意地でも何か回答を探したいと思いましたが、私の固い頭では無理でした。数年後金さんが来日されたときに、兜を脱いで教えを請いました。金さんは笑って「そんなことにこだわっているようでは一人前のロータリアンにはなれませんよ。オーレン・アーノルドの『ゴールデン・ストランド』の中の写真を見てご覧」といわれました。「The Golden Strand（黄金のより糸）」という書物は、アメリカのジャーナリスト、オーレン・アーノルドがシカゴ・クラブの依頼で書いたシカゴ・クラブの歴史（1960 年頃までの）物語です（初期のロータリーの歴史はこの書物以外にはポール・ハリスの書いたものしかありませんので、初期ロータリー史に興味を持つ人にとっては、この本は必読の書あったのですが、日本語訳がなかったのでなかなか通読することができませんでした。今では、田中毅パスト・ガバナーの翻訳があります。）。私は帰宅してすぐ、ゴールデン・ストランドをめくってみました。マダム・ガリのレストランの写真が見つかりました。そのキャプションに、「イリノイ街 18 番のマダム・ガリのボヘミヤ料理店で、ポール・ハリスとシルヴェスター・シールが、その店の評判のスパゲティを間においてポール・ハリスの新しい実業人クラブの構想について初めて語り合った。」とありました。　こうして、スパゲッティが正解らしいことが分かったのでした。

　ところが、ふとした切っ掛けで、1966 年に川崎クラブの笹部誠さんが、著書「ロータリーあれこれ」の中ですでに指摘しておられたことを思い出しました。私はこの本をすでに 1980 年ころには読んでいましたから、本来ならば、金さんの質問に即答できたはずだったのです。

話はまだ終わりません。数年前私はエヴァンストンに行って、RI の図書室の中で、「ザ・ナショナル・ロータリアン」を全部コピーしてもらいました。その 1912 年 3 月号に「最初のロータリー・クラブの創立」という記事が載っていました。シカゴ・ロータリー・クラブがその年の 2 月 23 日の例会に 4 人の創立メンバーを招いて創立記念日を祝い、その際の 4 人のインタービューが載せられていました。

ポール・ハリスがかなり長く喋っていますがその前文は資料 2 でお読みいただきたいのですが、次のような部分があったのです。「大都会に来たばかりの人が、お互いに知り合うことができた小さな地域社会でもったような交際、親しみ、職業上の機会を得るのに役立つ、そんなクラブを創ることができるはずだということを思いついたのでした。この件について行動を始めようと決めるまでに、私はシールとロアと何ヶ月も話し合ったように記憶しています。その結果、ロアと私は彼の事務所で会うことを約束し、彼はショーレイをそこに連れてくることにし、私はシールを連れて行くことにしました。その日シールと私はマダム・ガリの店に行き、スパゲティー・ディナーを楽しんだ後ロアの事務所に行ったのです。」ポールの言や重しです。

笹部さんはオーレン・アーノルドの著書を通しての間接的な証明ですが、ザ・ナショナル・ロータリアンは直接ポールにインタビューしたのですから証拠価値ははるかに高いでしょう。105 年前の 2 月 23 日にポールとシルヴエスターが食したのは、スパゲティーだということが、証明されたというお粗末。失礼致しました。

４　マダム・ガリのレストランでポールとシルヴェスターとがロータリー・クラブの構想について語り合ったときから 40 年の年月が閲した 1945 年 12 月 17 日シルヴェスターが亡くなりました。翌々1947 年 1 月 24 日ポールが後を追うように亡くなりました。今この二人の墓碑は、シカゴ郊外のマウントホープ・セミトリーに仲良く並んで建っています。最近、地元のロータリー・クラブがポール・ハリスの墓碑の周辺を飾り立てているようで、大分雰囲気が変わってきましたが、元は、本当に質素な墓碑が左側にポール・ハリス、右側にシール夫妻と慎ましやかに並んで、およそ、日本の共同墓地では想像もつかないような落ち着いた天国的雰囲気の中に、ひっそりとたたずんでいたのでした。唯一つ私が拘ったのは、夫人のジーン・トンプソンのことです。彼女はポールの死後ずっとシカゴで全世界のロータリアンから敬愛されて

いましたが、１９　　年故郷のエディンバラに帰り、その地に葬られました。

生前、ポールは、シルヴェスターについてこう書いています。「シルヴェスターはロータリーという言葉を最初に口にした人であるが、著者の住んだ『カムリー・バンク』より彼の家へは一条の道が通じている。樫の森の間を踏みならされた羊腸とした路で、それは春になると数知れぬ花が匂い、秋が来ると赤々としたうるしが輝く。森は暖かい日には好音に満ち、色々の美しい鳥が常にここを去らない。この特別の道は二十余年間シールとハリスの長靴や短靴の跡を印している。綿密な観察者は定めて踵の減った靴跡をも見出したことであろう。シールとハリスが互いに走り往復する時は着のみ着のままであって、彼らの訪問は衣服を見せるためではなかった。‥‥シルヴェスターと著者とは、ロータリーのために過去三十八年間しばしば同行、各地に演説して回った。彼は実に私の多年の親友である。」(「ロータリーの理想と友愛」P.279-80)

５　1905 年 2 月 23 日について身勝手な思いを巡らしてみました。まだまだ、色々な挿話はたくさんあります。ポール・ハリスが書いた上掲の書物や、「私のロータリーへの道」を読むとき感じる、何ともいえないほのぼのとしたもの、それを私はロータリーの誕生の周辺にも感じるのです。上に引用した、ガイ・ガンディカーの言葉と考え併せて、私はロータリー運動というものに限りない親近感を覚えるのです。

ポール・ハリスという、決して偉大だとは思わないのですが，類い稀な豊かな人間性をもった人の想像し創造した、ロータリー・クラブという類い稀な社交クラブ、その会員によって実践されるロータリー運動というものの在りようを、クラブの末席を汚すことによって知り体験できることの幸せを、私は限りない喜悦の感情の中に自覚することがあるのです。

（2010.2.24.クラブ卓話）

資料　1

The earliest members of Rotary

1905,2,23.　　Unity Bld. No.711 At Dearborn Str.

Paul Percy Harris
Sylvester Shiele
Hiram Shorey
Gustavas Loehr

3,9.　　Wolff Bld. Paul's office

William Jenson
Harry Ruggles

3,23.　　Shiele's coalyard at Twelfth and State Str.

Arthur Irwin
AL. White
Charles A. Newton

(The Golden Strand p.18-19.)

資料　２

最初のロータリー・クラブの創立（抄訳）

THE NATIONAL ROTARIAN　Mar.1912.

シカゴ・ロータリー・クラブの創立第７回記念日は、1912 年２月 22 日木曜日の夕刻シカゴ・ロータリー・クラブの例会において非公式に行われた。

W.S.ミラー会長が司会し、プログラムのしかるべき段階で、この機会を祝うことをより有意義にするために出席した、４人の最初のロータリアンたちを紹介した。彼らが暖かい拍手に包まれて席から立ち上がった時、スタッフカメラマンが彼らの写真を撮った。シール氏、ショーレイ氏そしてロア氏は、スピーチを求められた時それぞれこのような機会に出席し得たこと、ロータリー・クラブという考え方の成長と発展について喜びを表明しながら、いくつかの適切な意見を述べた。ハリス氏は「ロータリーの父」として紹介され、盛大な拍手で迎えられた。彼はしばらく追憶を懐かしむかのように話をし、その後、ロータリアニズムにおける際立った特徴となった奉仕の心（the idea of service)を淀みなく解説して話を終えた。

例会の終了後、ザ・ナショナル・ロータリアンの編集者は、４人のいまや著名人である一人ひとりにインタービューをする好機えたので、特に 1905 年２月 23 日の最初のロータリアンたちの会合にまつわることについて質問した。

ハリス氏の話しの概要

どのようにしてクラブ創立に至ったのかというのですか。そうですね、私はそのような団体のことをしばらく真剣に考えたことがありました。まず第一に、ロアとシールとラグルスと私自身とそれから多分その他の人たちも含めて、すでに互恵的な方法で職業的な好意を取り交わすということは、無意識的にすでに行われていました。少なくとも私はこれらの思いやりのある人たちからの好意を受けていました。確かに私も幾つかの仕事をその人たちに斡旋したことがありました。

新しいクラブを創るということに対して、特に私の考えを向けさせたことのひとつは、私の親しい弁護士のシカゴの郊外にある彼の家を訪ねたことでした。夕食後私たちは散歩に出ました。そして、ふらりと薬屋に入りますと、彼はその経営者に私を紹介しました。それから煙草屋に立ち寄り私はそこの主人に会いました。さらに食料雑貨店にもちょっと立ち寄りその経営者にも

会いました近所のその他の店でも同様でした。私の友人は誰とでも知り合いだったようでした。私はこのような交際関係は、人間にとって極めて有益であるに違いないと悟りました。このような交際関係は、大都会に来たばかりの人が、お互いに知り合うことができた小さな地域社会で持ったような、交際、親しみ、職業上の機会を得るのに役に立つ、そんなクラブを創ることができるはずだということを思い付いたのでした。この件について行動を始めようと決めるまでに、私はシールとロアと何ヶ月も話しあったように記憶しています。その結果、ロアと私は彼の事務所で会うことを約束し、彼はショーレイをそこに連れてくることにし、私はシールを連れて行くことにしました。その日シールと私はマダム・ガリの店に行き、スパゲティー・ディナーを楽しんだ後私たちはロアの事務所に行ったのです。

その夜まさに私たち 4 人がそこに集まったのです。そして、私たちはクラブを創ることについて全般的なことを話し合いました。そして、一週間くらい後にもう一度私の事務所で会合することを決めました。そうです、第 1 回の会合では吃驚するようことはなにもなかったのです。そういえば、ロアとショーレイとの間で、二人の共通の知人であるある若い女性のことを話していたような気もしますが、そんなことはクラブに何の関わりもないことです。

私たちは数ヶ月間会員の事務所で夕方会合していました。そうすることで私たちはお互いの仕事場を知り、またどうしてお互いに助け合えるかを学ぶことができたのです。第 2 回の会合で他の数人が参加しました。ラグルスとジェンスンが第 2 回の会合に出たように思います。そして、第 3 回の会合にさらに数人が参加しました。そして、その会合で私たちはどうやら会長を決める時期だと考え、その夜シールを第 1 代会長に選出したのです。

もし、私が間違えていなければ、同じ晩にクラブの名称を選定しました。私が五つ六つを提案し、その中にロータリーがありました。私が一番好きだったのは “The Conspirators” であったのですが、多数は全くこれを支持しませんでした。ロータリーという名称は、私たちは会合をある会員の事務所から他の会員の事務所に巡回するということと、また、会員間で職業の循環というような考え方があったということから心に浮かんだのです。いずれにせよ、「ロータリー」は支持を受け正式に採用されました。

1905 年の秋には、私たち会員は増加しましたので事務所で会合することはだんだん不便になりました。そして、ラグルスだったと思いますが提案したのです。いずれにしても、会員の事務所での例会に出席するために、私た

ちの多くは夕食のためにダウン・タウンに留まっているのだから、私たちは全員が同じ場所で夕食をとり例会を持った方が良いではないか。そして私が出席した最初の夕食会は、旧シャーマン・ハウスのメインダイニング・ルームでした。食後、私たちは２階の会場に移り例会を開きました。これが夕食例会の始まりで、いまやロータリアニズムの特徴のようになりました。正午の昼食会は後になって定着したのです。

シールに、彼の会長年度の行事の概略を提出するようにさせ、第２代シカゴ・ロータリー・クラブ会長のホワイトにも彼の年度について同じようにさせたのは大変素晴らしいアイディアです。

この最初の２年間に多くの発展が見られました。その中でロータリーの発展における最大のものは、今私たちがロータリアンとして持っている奉仕の心(the idea of service)なのです。

注）本文中 the idea of service という語が２回出てきます。the ideal ではありません。奉仕の心と訳しておきました。